

EPF (フラワーズ・フィルム・フィクション)

音響照明映像書き込み ver.

登場人物一覧

安土真也

来須希

井原愛

三瀬翔子

馳地流

迫通

烏丸ライ

烏丸レイ

秋人

毒島眠子

姫野芽里

安土優菜

掛布亮太

阿古文太

安土真也 (子供時代)

安土鈴

馳地流 (子供時代)

馳地恵

友人

先生

いじめっこ1・2

書き込み分け

照明は赤

音響は青

映像は緑

照明・一階に地明かり前明かり

開幕と同時に、真也と希が戦っている。

光線を避けている真也。

真也 どうして…。どうして僕たちが戦わなくちゃいけないんだよ！！

希 ……花言葉「希望」キバナアママ！

照明・一階明かりを落として、二階中央にサス。

舞台二階中央に、馳地と真也（子供時代）がいる。

馳地 見えるかい？

子 うんとね…。

馳地 どうだろう。

子 あれ！ 見えるようになってる！

馳地 おお。

子 おじさんはバジル！

馳地 バジル？

子 うん！ 凶鑑で見たことあるから絶対だよ！

馳地 ……本物か…。

子 何か言った？

馳地 いいや、何も？ お母さんとお父さんは何の花だったかな？

子 えつとね、スズランとカーネーションだったよ！

馳地 スズランとカーネーションか、ありがとね。

子 どういたしまして！

照明・二階明かりを落として、一階中央にサス。

舞台一階中央に真也がいる。

真也 小さい頃から人の心の中にある花が見えた。花の凶鑑を広げては、一人一人を指差して、花の名前を言った。あの人はチューリップのお姉さん、ひまわりのおばあちゃん、百合のお兄さん。花のことなら何でも分かる、変わった子供だったと思う。

照明・一階明かりを落として、二階中央にサス。火事を思わせる赤。
家が火事になっている。

子 お母さん！ お父さーんーんー！ どこー？！ー！ ゲホッゲホッ、苦しい…。お母さん、お父

さん…。

馳地 大丈夫かい！？

照明・二階中央サスから二階に前明かり地明かり（赤もフェードアウト）

子 おじさん？ 何でここに…。

馳地 たまたま通りがかったんだよ。

子 そうなんだ。

馳地 落ち着いたかい？

子 何とか…。でも、お父さんとお母さんが…。

馳地 それは、プロの人に任せよう。

子 でも…。

馳地 ね？

子 うん…。

馳地 そうだ、綺麗に撮れたんだ。

馳地、写真を真也（子供時代）に見せる。

子！

馳地 よく撮れてると思わないか？

子 これ、お母さんとお父さんのスズランとカーネーション…。

馳地 そう言えば、君の花は、何だったかな？

子 ……な

馳地 ん？

子 ないです。ボクには、花なんか、ないんです。ホントです。ホントなんです…！。

馳地 ふむ…？ そうか。では、また、会おう。

子 お母さん！ お父さん…！

照明・二階明かりを落として一階に前明かり地明かり

真也 何これ？

友 何年か前から話題になってる花の写真たち、「フラワーズ・フィルム」。普通の花とは違って、不思議な魅力があるって、誰がどうやって撮ってるのか謎なんだって、説明したよ？ 聞いてた？ いや、聞いてたら質問しないか。最初から聞いててよ！

真也 お母さんのスズランと、お父さんのカーネーション…。

友 何？ ご両親栽培とかしてたの？

真也 いや、そういうわけじゃないんだけど…。

友 真也も好き？ 花。

真也 花は…。

照明・一階明かりを落として、二階中央にサス。

優菜 お母さんとお父さんにバイバイって。ほら、さよなら〜って。

子 なんで？ ここにいるのに、なんでバイバイなの？

優菜 ……死んじゃったの。もう、会えないの。だからバイバイなの。

子 お花がない。

優菜 お花？ あるじゃない。こんなにたくさん。

子 ここに。胸のところにあったのがないの。

優菜 ……。

子 ねえ、死ぬってお花がなくなることなの？ だったらボクもないよ？ ボクも死んじゃったの？

優菜 生きてるの！ あなたは、生きてるのよ！ だから、泣いていいのよ。

子 真也、泣く。

照明・二階明かりを落として一階中央にサス。

真也 これは、咲いては枯れていく、「花」の物語だ。

Op。ダンス・映像。

ダンス後。

照明・二階に前明かり地明かり

秋人 それで結局

真也 うん？

秋人 花は、好きなのか？ 嫌いなのか？

真也 う〜ん…。どっちも？

秋人 どっちも？

真也 好きも嫌いもあるよ。全部好き、でも嫌い、でもない。

秋人 はあ。

真也 色んな側面があるから。花って。ほら、花言葉もいいものも不吉なものもあるから。

秋人 確かに、色んな面があるな。人と同じだ。

真也 そうだね…。

照明・一階にも前明かり地明かり(全面明るくなります)

真也 それにこれだけ見えてて嫌いになったら、外に出れないよ。

秋人 ああ、そうか。そりゃそうだ。

真也 ありがとね。

秋人 …いきなりどうしたー？

真也 あの日からいてくれたから、引きこもらずに済んだんだと思う。

秋人 そんな大したものじゃないし、感謝されるようなことじゃないって。

真也 …お父さん。

秋人 なんか言ったか？

真也 いいや、何も。

秋人 どんな花があるんだ？

真也 えつとね…。あれ？ あれだけ花が開いてる。

秋人 花が開いてる？

真也 うん、キバナアマだ。いわゆる、月光花。

その瞬間、希が真也を睨む。

真也 えつ。

ズカズカと真也に近寄ってくる。

真也 えつ、えつ。

追い詰められる。

希 何故知っている。

真也 知って…？

希 花の名前だ。

真也 …。

希 確かに聞いたぞ。勘違いとは言わせない。

真也 …。

希 何故知っている？ 返答次第では…。

秋人 逃げろ！

真也 ！

希を突き飛ばす真也。

真也 ごめんなさい！

真也に照準を合わせる希。しかし、人に当たりそうなため、断念する。

希 ちっ。

照明・一瞬暗転の後、一階に前明かり地明かり

真也 はあ、はあ。

走って、舞台上へ。

秋人 とりあえず見えなくなっただな。

真也 何で。何で知ってるんだ。花のこと。誰にも見えなくて、誰も知らなかったのに。

馳地 誰も？

真也 ！

馳地 本当に誰もか？

真也 誰もだよ！

秋人 おい、どうしたんだ急に。

馳地 忘れるなんて酷いじゃないか。

真也 あんたなんか知らない。

馳地 薄々勘づいているんだろう？ 私も「花」のことを知っていたことを。そして今君を追っている彼女も…。おや、息が荒いな、大丈夫か？

真也 うるさい！！

秋人 落ち着けて。深呼吸、深呼吸だ。

真也 はあはあ…。うん…。

真也、深呼吸する。

秋人 落ち着いたか？

真也 うん。ありがとう。

と、その時、足元で光が弾ける。

希 ……あいにく、信じられないな。

希、真也を離して距離を取る。

希 ……誰だ。

毒島現れる。

毒島 お取り込み中、失礼。名乗るほどのことでもありませんので、名乗らぬ非礼をお許しください。

希 名乗れよ。誰だよ、お前。

毒島 今から私に負ける相手に名乗っても、仕方ないでしょう？

希 何だと。

真也 ちょっと…。

毒島 失礼。怒らせてしまいましたかな？ では、これだけお教えしましょう。花言葉「夢の中」ダチュラ。

毒島、胸から花を引き抜く

映像・ダチュラ

照明・映像用に一瞬照明落とす

毒島 あなた方は私に指一本触れることも叶わない。

希 言うじゃねえか。

真也 ちょっと！

希 さつきからうるせえな。

真也 近寄らない方がいい。

希 はあ？ お前も俺が負けるって言うのか？

真也 じゃなくて。見えない？

希 何が？

真也 あいつから出てる霧みたいなの！

希 霧？

真也 ペラペラ喋ってるのも、あれを撒くためなんだと思う。

希 じゃあ、近寄らなきゃ、いいんだろ！

光が一筋走るが、毒島にはあたららない。

希 何っ!?

毒島 どうかなされましたか? もしや、もう「夢の中」におられるのですか?

希 くそっ、来い。

真也 えっ。

真也と希、ハケる。

毒島 やれやれ逃げられましたか。もしや…。ふふ、面白い。

照明・二階照明落とす(一階のみになります)

亮太と文太が話をしている。

文太 兄貴兄貴い!

亮太 どうした?

文太 兄貴はタバコとか吸わないんですか?

亮太 タバコは吸わねえよ。

文太 何ですか? かけえのに!

亮太 そりやお前、毒だからだよ。肺は汚れるし、体にいいことなんか一つもありやしねえ。

文太 ほうほう。

亮太 体は大切にすって決めてんだ。

文太 流石、かけー兄貴!

亮太 へへ。

文太 だけど、そんな毒を何で売ってんすかね?

亮太 そりやお前。すぐに死ぬほどの毒じゃねえからだよ。

文太 なる…ほど?

亮太 そういうものはたくさんある。例えば身近にある花、スズランなんかにも毒がある。

文太 なるほど流石…。

真也と希が出てくる。

希が亮太を蹴り飛ばしてしまふ。

希 あ、すまねえ。

文太 兄貴ーーーーー!!!!!!

希 わざとじゃねえんだ。悪い。

文太 兄貴! 兄貴い、あに…。

倒れる文太。

希？

真也 …。

希 俺じゃねえ！ 俺は何もしてねえ！ そりゃ、こっちは蹴り飛ばしたけど、それもわざとじゃなくて…。

真也 離れた方がいい。

照明・二階に地明かり前明かり（全面明かり）

毒島が現れる。

毒島 やはり！ 見えているのか！！ 面白い。だが、失礼。すぐに「夢の中」に送って差し上げましょう。

希、構える。

毒島 見えてもいないあなたに何ができる。退場一つでしょう。失礼。本当のことを言っていました。

一発撃つが、外れる。

毒島 無駄だと言っているでしょう。

希 …くっ。

真也と希逃げる。

毒島 逃げる。まあそれも一手でしょう。いつまで逃げられるかは分かりませんが。

照明・一瞬暗転の後、一階に地明かり前明かり

逃げながら

希 おい、何が原因だと思う。

真也？

希 俺は完璧にやつを捉えて光を放った。だが、やつには当たらなかった。

真也???

希 何でだと思う？

真也 完璧に捉えていた？

希 そうだ。

真也 全然違うところに狙いを定めていたのに？

希 は？

真也 当てるつもりはないんだと思ってた。

希 何言ってるんだ？ 喧嘩売ってるのか？

真也 そっちこそ。

秋人 見えているものが同じとは限らない。

真也 同じとは限らない。

秋人 特に、変わったモノが見えているなら、なおさら。

照明・二階に地明かり前明かり（全面明かり）

毒島出てくる。

毒島 いつまでも逃げられるとは思わない方がいいですよ。

真也 霧に囲まれた…。

毒島 あなた方を待つのは、深い眠りの底です…！

希 くそっ。

真也 …ダチュラ。

希 ？

真也 ダチュラには眠くなる毒性がある。花言葉通り、「夢の中」へ誘う毒の霧を出すのが、奴の能力じゃないか？

希 なるほど、眠くなる霧か。それであいつら…。

真也 そして多分、霧で光を屈折させて、自分の居場所を錯覚させていたんだ。

希 そうか、だから…。くそっ。

真也 僕には見えると言ったら？

希 ！

真也 奴の本当の居場所が見えると言ったら信じる？

毒島 さあ！ 夢の中へ…！

希 どうしてだ？

真也 ？

希 俺も、お前にとつてはあいつと変わらない他人だ。それなのにどうして俺を信じる？

真也 ……最初追いかけてくる時、能力を使えたのに、君は使わなかった。

希 人に当たると思った。

真也 だから、信じた。

希 花言葉「希望」キバナアマ。光を放つピットを操る能力だ。…お前を信じたわけじゃない。

ただ、今のままじゃ埒があかないからな。

希、狙いをつける。

毒島 当てる気ですか？ 当てる気なんですかあ？ ハハハハハハハハハハ。…失礼。おかしくて、ハハハ、失礼。

真也 もうちよつと左。行きすぎ。戻って、下。相手が動いた。左に。

希 難しいな…。

真也 あ、そっちじゃなくて！

希 指示が分かりづらいんだよ！

真也 何だよその言い方！！

毒島 花人が二名。あの方もきつと喜んでくださるに違いない！

真也 くそ！ えっと…。

秋人 緊張してるな。息が荒い。落ち着いて。

真也 ！

秋人 深呼吸、深呼吸だ。

照明・一階明かりをサスのみにする。

真也、深呼吸し、希と手を合わせて、狙いを定める。

真也 今。

光の弾丸が毒島を貫く。

毒島 ぐつ、ぬわあああああああああ！！！！

毒島、倒れる。

照明・一階に前明かり地明かり

真也 倒した…？

倒れてる毒島に照準をつける希。

照明・一階明かりを落とす。(二階のみになります)

真也 な、何してるんだよ！

希 念のためにな。

真也 もう意識がないのぐらい、見れば分かるだろ！

真也に照準をつける希。

希 お前に指図される筋合いはない。

一歩も引かない真也。

希 変な奴だな。

照準を降ろす希、

希 こいつは、お前のことも狙ってたんだぜ。

真也 それでも、良くない。

希 お前は俺たちのことも、こいつらのことも知らないからそんな甘いことを言えるんだ。

真也 かもしれないけど、見過ごせない。

希 ああ、そうかい。好きにしろ。だが、こいつは連れて行く。聞かなきゃいけないことがたくさんあるからな。お前も帰りな。帰りを待ってくれる人ぐらいいるんだろ？

真也 (時計を見て) もうこんな時間！？ やばっ！

照明・二階明かりを落とすとして一階に前明かり地明かり

優菜が心配そうに帰りを待っている。

そこに、真也が帰ってくる。

真也 優菜お婆さん、ただいま〜！

優菜 お帰りなさい！ 遅かったじゃない！

真也 あはは、ごめん。

優菜 どうかしたの？

真也 あ〜…。

優菜 何かあった？

真也 友達と遊んでたら、遅く、なっちゃった…。

優菜、俯く。

真也 ごめん…。…お婆さん？

優菜、真也を抱き締める。

真也 え、ちょっと何々?! 痛い痛いつて…!

優菜 こういうの初めてだったから。

真也 ……。

優菜 よかった…。(ここで離す)

真也 ……うん。

照明・二階中央にサス。

希 俺たちのことは内緒にした方がいい。誰かを巻き込みたくなかったらな。俺は平穩に暮らすための組織に所属している。お前のその、花が見える能力のことはリーダーに報告させてもらう。

真也 勝手な…。

希 信頼されたかったら、リーダーに会え。まがりなりにも助けてもらったからな、話は通してやる。

照明・二階中央のサスを落とす。

優菜 ご飯。

真也 え?

優菜 ご飯、食べるでしょ?

真也 あ、うん。

優菜 もしかして、食べてきた?

真也 ううん、食べてきてないよ。お腹空いた…。

場転。

照明・一階明かりを落として二階に地明かり前明かり

三瀬、愛、希がいる。

三瀬 ……花が見える?

希 はい。俺の花も、見えていました。

三瀬 ……信じられないな。

希 これからここに来ますので、試してはどうかと。

三瀬 ……もし本当だとしたら、

希 ……はい。

三瀬 この世界は、一変してしまうだろうね。

希 え？

三瀬 いや、何でもない。私の考えすぎだ。

希 …来たみたいですよ。

照明・一階に地明かり前明かり

真也 入ってくる。

三瀬 よく来てくれたね、この組織のリーダー、三瀬翔子だ。

真也 は、はい！ 安土真也です！

三瀬 そんなにかしこまらなくていい。私も君も同じ人だ。

真也 そうですよね、すみません…。

三瀬 無理に、とは言わないよ。その内でいい。

真也 はい。

三瀬 さて、うちの組織について説明しよう。今までと同じように「平穩」に暮らすために助け合おうってだけの集まりなんだ。仲間がいれば心強いし、いざという時に頼れるからね。

真也 なるほど。

三瀬 実を言うと、これ以上特に言うことはないんだ。君にはこの花とか、能力について説明した方がいいかな。誰が呼び始めたか分からないが、私たちは「花人」と呼ばれている。この市だけでも決して少なくない数いるようだ。心に花を宿し取り出すことができ、花の特徴やイメージに基づいた能力を持っている。ここまではいいかな？

真也 はい、あの…。

三瀬 なんだい？

真也 僕の、花が見えるのも、その能力なんでしょうか？

三瀬 (クールと目配せをして) 今も見えるかい？

真也 はい。

三瀬 では、分かる範囲でいいから、教えてくれ。

真也 その彼は真っ赤なバラ。一回見ましたが、キバナアマ。そして、ミセバヤ。花言葉は「平穩」。それで、みんな咲いています。

三瀬 咲いてる？

真也 街の人とかは蕾が開いてなくて咲いてないんですけど、ここにいる人はみんな咲いています。

三瀬 …なるほど、すごいな。正解だ。花言葉「平穩」ミセバヤ。

三瀬、花を取り出す。

真也 あれ？

三瀬 どうかしたかい？

真也 見えなくなりました。

三瀬 ……試すようなことをしてごめんね。君の能力は確かに本物だ。

真也 いえ！ 大丈夫です。

三瀬 君が思ってる以上に、その能力は、世界を変えてしまってもいけない。濁流が君を飲み込もうとするだろう。だが、どうか飲み込まれないで欲しい。

真也 それって、どういう…。

三瀬 その時が来れば、きっと分かる。 ……最近私たちが悩ませていることがあるんだ。

真也 ……。

三瀬 「フラワーズ・フィルム」という言葉を聞いたことはあるかい？

真也 どこかで…。

三瀬 ネット上であげられている花の写真たちだ。

真也 あっ、そうです。見せてもらったことがあります。

三瀬 この花、花人の花なんだ。

真也 えっ…。

三瀬 いくつか、私たちの仲間だった者の花もある。

真也 ……。

三瀬 皆、この写真を撮るために殺されたんだ。この馬鹿げた行為を止めなくてはならない。絶対に、止めなくてはいけないんだ。

真也 ……写真。

三瀬 ……大丈夫かい？

真也 えっ、あっ、はい。

三瀬 今日はここまでにしようか。

真也 いや、その…。

三瀬 一気に詰め込みすぎてもいけないから。

真也 はい…。

愛 よく分かったな、私の花はバラ、花言葉は「情熱」、井原愛だ！ お前すごいな！ マジシヤンに「あなたが選んだのはダイヤのエースです」って言われた時みたいゾクってきたぞ！！

希 手品じゃなくて能力だ。

愛 分かってるって！ なぁ？

真也 は、はぁ。

希 引かれてるぞ。

愛 あぁ！ 悪い悪い！！ ま、よろしくな！！

希 入るとも言っていないぞ。

愛 そうなのか！？ 私あてつきり入るもんかと！

真也 まだ考え中で…。

馳地、入ってくる。

馳地 談笑中申し訳無いね。

真也、身体が強張る。

それ以外は構える。

三瀬 どなた様かな？ どうやって入ってきた？

馳地 正面から。呼び鈴が見当たらなかったがどこかにあったかな？

三瀬 ！

馳地 おっと、動かない方がいい。全員的首が飛ぶことになる。

三瀬 入り口にいた二人をどうした。

馳地 （写真を見せて）撮るのも手馴れてきたよ。将来の夢は写真家にしようかな。

愛 おい、おっさんふざけてんじゃねえぞ！！

三瀬、手で愛を制止する。

三瀬 何の用だ。

馳地 ジョークは嫌いかい？

三瀬 笑えないものはね。

馳地 うちの者が一人お世話になってるだろう？ 迎えに来たんだ。

三瀬 …。

馳地 今日のところはそれだけだ。本当だ。

三瀬 奥にいる。

三瀬、構えを緩める。

愛 リーダー！

三瀬、首を振る。

馳地 どうも。

馳地、真也に気づく。

馳地 ああ、久しぶりだね。大きくなったもんだ。
真也 ……

馳地 またね。

馳地、ハケていく。

崩れ落ちる真也。

照明。二階明かりのみになる

愛 おい、大丈夫か！

真也 ごめんなさい、なんとか…。

三瀬 何かあったのか？

真也 ……。

三瀬 言いたくなかったら、無理には言わない。

真也 ……いえ。あの男は……。あの男は僕の両親を、殺した男なんです。

場転。

照明・二階明かりを落とし、一階下手サスのみになる

不良出てくる。

亮太 バジルってあるじゃんかよ。

文太 バジル？

亮太 そう、あの、料理に使う、植物の。

文太 ああ、緑の。

亮太 植物って大概緑じゃねえか。

文太 確かに。

亮太 で、そのバジルなんだけどよ、滅茶滅茶繁殖力が高いわけよ。

文太 へ…。

亮太 下手な雑草よりも高いからよ、

文太 ふんふん。

亮太 嫌いな奴の庭を崩壊させたかったら、バジルの種蒔いてやればいいのよ。

文太 物知り〜。さっすが兄貴い！！

亮太 へへっ。

弁当箱を開けて食べる不良。

文太 兄貴それ…。

亮太 ああ、このバジルソースか？　なんか最近庭にバジルが生えるようになったから作ってんだよ。

文太 あ、兄貴いいいい！！！！

場転。

照明・二階中央のサスのみになる。

馳地と迫と、お姉さん二人がいる。後、毒島が張り付けにされている。

迫 この場所も全部、喋っちゃったんだ。

毒島 失礼。ただ、能力が使えなくなっただけでどうしようもなくなったんだ！

迫 へえ。

毒島 何も、出来なくなったんだ。ずっと使えてたのに、ただの人になっちゃった！　それで怖くなっただけ……。

迫 それは災難だねえ。

毒島 そうなんだよ！

迫 だけど、あの人は何て言うだろうねえ。

照明・全面明かりになる

毒島 (息をのむ)

レイ 死ぬでしょ。

レイ レイ！

レイ 本当のことじゃん。あつ、嘘つけて？

レイ 言い方とかあるでしょ！

迫 無駄無駄。取り繕っても、死は死。観測された、確かな死。

毒島 死にたくない……！　死にたくない……！

レイ 最初からそうやって必死になればよかったのに。

毒島 え？

レイ 姉さん言うねえ。余裕ぶっこいてっから、死ぬんだって？

レイ だから、そんな言い方……。

レイ 事実だよ。毒島。あんたは自分の間抜けさで死ぬんだ。ボスは、そういう間抜けを許さない。

毒島 死にたくない、死にたくない……。

馳地 ただの人になった。

毒島 そう！　そうなんです……！　それでどうしようも……

馳地 思い上がるなよ。

毒島 ひゃっ（情けない声）

馳地 なったも何も、最初からただの人だろう。何になったつもりだ？

毒島 すみません、すみません！

馳地 バジルは全てを侵食し侵略し、支配する。

毒島 許して！ 許してください！！

馳地 蝕まれていけ。花言葉「憎しみ」バジル。

毒島、バジルに飲み込まれていく。

映像・バジルの侵食。

照明・映像用に一瞬照明落とす

馳地 さてどうしようか。

ライ 早急に対策を練るべきかと…。

迫 いやいや、どうもしなくていいでしょ。

ライ どうもしなくていいってどういう、

レイ 来たら、ぶち殺しやあいい。単純だ！ そう言うこったろう？

迫 そゆこと。

ライ 無茶な…。

レイ 無茶じゃねえ！ 簡単だ！

迫 そうそう。

レイ 平穏とか目指してる平和ボケしてるやつらとじゃ、

迫 格ってやつが違うよ。

ライ でも、

レイ でもじゃねえ！

ライ ちょっと静かにしててレイ！

レイ ……。

ライ ボスはどう思います？

馳地 迎え撃とう。

レイ ふう。

迫 そうこなくっちゃ。

馳地 正々堂々、捻り潰して、差を見せつけてやろう。

迫 よしっ、それじゃあ解散だね。

迫、ハケていく。

ライ、毒島の死体に手を合わせる。

レイ 姉さん。そんなことしても無駄だと思うけど。
ライ いいじゃない。飯にも仲間だったんだから。
レイ 自己満足？ ってやつ？。

馳地が指を鳴らすと、毒島が立ち上がる。

馳地 ありがとう。これで安らかに天国へ行けるわ。

お辞儀をした後、ハケていく毒島。

ライ ボス…。

馳地 もう、単なる物だ。

レイ 趣味悪。

ライ ボス。

馳地 何だ？

ライ あの少年と、何かあったのですか？

ボス ……………いいや、昔近所に住んでいただけだ。

レイ 絶対嘘じゃん。

ボス だけだよ。

レイ ……はいはい。行こつ。

ライレイ、ハケていく。

照明・一階下手サスのみになる

馳地 真也くん。

照明・二階中央サスのみになる。

三瀬 そうか、あの男が…。…安土くん。私たちはあの男を倒すつもりだ。毒を使う女から相手のアジトの場所は聞いた。調査が終わり次第、攻め込むつもりだ。

愛 調査？

三瀬 この場所が何故かあの男にバレていた。

愛 つまり？

希 裏切り者がいるかもしれない、ということですか。

三瀬 ああ。

愛 う、裏切り者お！？

希 声が大きい！

愛 す、すまねえ。

三瀬 無理に戦いに参加しろとは言わない。平穩に暮らすことが、一番だからね。

照明・二階中央サスを落とす、一階地明かり前明かり

真也 平穩、か…。

チャイムが鳴る。

友 なーなーなー、カラオケ行かね？

真也 あれ？ この間行ってなかった？

友 この間どころかー、昨日行ったよ。

真也 昨日！ 行ったばっかじゃん！

友 足りないよ、足りない。週七でも足りないよ！

真也 毎日じゃん、病気かよ！

友 病気じゃないですー、正気ですー。なあ、行こうよ。

真也 えー、いいけど。大丈夫なの？

友 大丈夫って何が？

真也 金とか。

友 問題なし！

真也 喉とか。

友 快調！ 美声響かせたるよ！

真也 うーん、ならいいよ。

友 やったあ！ カラオケ行かないと手震えちゃうんだよね。

真也 やっぱり病気じゃん！ アル中かよ！

友 まあねー、浴びるように歌ってるからね。

真也 誉めてないからね！

友 とにかく善は急げ！ 行くぞー！

先生が現れる。

友 先生…？

先生 提出。

友 あー、そうだった！ 四限の数学で俺だけ宿題やってきてなくて、「放課後までに提出しま

す」って言ったのをバックレて逃げようとしてたんだっただけ！

真也 誰に説明してんだ。

友 見つかったなら仕方ない。提出してくるからカラオケはまた明日な。先帰っててくれ。秒で終わらせて追い付くわ。またな。

真也 おー、またな〜…。

帰り道。

秋人 残念か？

真也 何が？

秋人 カラオケ行けなくて。

真也 別に。

秋人 またまた〜、楽しみにしてたくせに。

真也 別に。

秋人 素直じゃないね〜。

真也 素直だよ！

秋人 はいはい。

真也 何だよその態度！

秋人 別に。

真也 真似すんなよ〜！

照明・二階中央サスがつく。

何名かにいじめられている子（姫野）を見かける。

いじめ1 気持ち悪い。

2 マジで化物じゃん。

1 なあ、何で学校来てんの？ 学校って、人間の、子供が行くところだよ？

2 何で化物が来てんだよ。

1 なあ、何か言えよ。

2 無理だよ。化物には人の言葉喋れないんだって。

1 そうか。ごめんごめん、俺が悪かったよ。

姫野 やめてよ。

1 あ？

姫野 やめてよ。

2 化物がなんか鳴いてるよ！

1・2 （笑う）

愛 愛だ。

真也 愛ちゃん、ありがと。

愛 これは一体どういうことだ？

真也 分かんない。いじめられてる子が、急にあんな感じに。

愛 刺客とかじゃないってことか。

真也 多分、そうみたい。

姫野 すげー！ すげーけど、痛えし、制御できないな。お前が力くれてんだな。

（映像）
姫野、花を取り出す。

映像・アメリカヒメフウロ。

照明・映像用に一瞬照明落とす

姫野 見たことねえな。雑草か？ 何でもいいや。こいつがあれば僕は最強だ！！ 勝てるぞ！！！！

愛を見つける姫野。

姫野 何だよお前ら。

愛 お前を止める。

姫野 お前らには関係ないことだろうがよ！

愛 同じ花人として、見逃すことはできない。

姫野 僕の能力で僕がどうしようが勝手だろうが！ これは神様がくれた贈り物なんだよ！ チャンスなんだよ！！！！

愛 なら尚更止めなくてはいけないな。

姫野 はぁ？ 何だよ？

愛 神様が、人を殺させるために贈り物をするとは思えないからな。

姫野 つー！ うるせえ！！！！

飛びかかる姫野。すんでのところで避ける愛。

愛 …… …大したスピードだが、避けられないほどではないな。花言葉「情熱」バラ。

愛、花を取り出す。

映像・バラ

照明・映像用に一瞬照明落とす

愛 止めさせてもらおう！
姫野 ！

イバラが姫野の体を絡めとる。

愛 そのイバラは簡単なことでは取れないぞ。

姫野 ぐうううう…。

愛 無駄だ。体が傷つくだけだ。大人しくした方がいい。

姫野 あがががが…。

愛 おい！ 腕が…！ やめろ…！！

姫野 がああああああ！！！！

愛 なっ！！

愛、吹っ飛ばされる。

真也 引きちぎった…。

愛 …残念なお知らせがある。

真也 は？

愛 私の能力はあいつに一切きかない。

真也 はああ？

愛 見てたろ！ 引きちぎられたんだぞ！

真也 いや、だとしても！

愛 あんなにかっこよく見得切ったのにな！ 私もそう思うよ！！

姫野 どうした？ それぐらいか？

愛 そうだ！

真也 そうだじゃないよ！！

姫野 じゃあ死ぬ！

殴りかかってくる姫野。直線的で分かりやすい攻撃のため、何とか避けられる。

姫野 くそお！ くそお！！

真也 どうすんの？

愛 援軍が来るまで時間を稼ぐしかないだろう。

真也 時間稼ぎ？

愛 幸運なことに、まだ力を制御できてないようだ。あんな単純な攻撃なら当たりようがない。

姫野 殺す。壊す。

愛 来い！ 全部避けてやる！

いくらか攻撃をされるが、全部避ける愛。

愛 ぬはははははは、そんなものか！

姫野 …お前。僕をなめてるな？

愛 あ？

姫野 あいつらと同じ目だ。僕をなめてる。できないやつ、バカなやつ、可哀想なやつ。いじめ
ていいやつ。そう思ってる。

愛 そんなこと思ってねえぞ！

姫野 今に見てるろ今に見てるろ今に見てる…

愛 お、おい？

急に攻撃を繰り出す姫野。何とか避けるが、今までとは違い、途中で翻って、愛に一撃を食ら
わせる。

姫野 僕をバカにしてなめてるからだ！…！ さまあああああみるろ！…！

ゆっくり愛に近づく姫野。

真也 おい。

姫野 何だよ。

真也 何する気だよ。

姫野 トドメさすんだよ。

真也 やめろよ。

愛 何してる。逃げろ…。

姫野 何だよ、どいつもこいつも…。好きにさせろよ…。殺す！

愛 真也。

攻撃を全部避ける真也。

姫野 あれ？ 当たったと思ったんだけど…。

真也 ……？

愛 やるじゃねえか。

その後の攻撃も全部避ける真也。

姫野 やるじゃん。

真也 見える。

愛 見える？

真也 相手の攻撃の軌道も、自分がどう動けばいいのかも。

姫野 何言っちゃってん…の！

攻撃を避け続ける真也。一発当てられそうになるが、やめる。その隙に一撃を食らう。

姫野 ざまあみろ！

愛 おい、何で止めたんだよ！

真也 殺せました。

愛 は？

真也 あの速度で相手の顎を殴ったら、殺せました。僕の拳は、人を、殺せます。見えました。

姫野 バッカじゃねえのか？

姫野、興味をなくして、立ち去ろうとする。

友、出てくる。

友 真也！ 危ないぞ！！

友、姫野に気がつく。

友 ああ…。

姫野 邪魔だよ。

真也 友！！

姫野 邪魔だよ！！

姫野と友の間に入る真也。

姫野の攻撃は二人を避けている。イバラが姫野の手に絡み付いている。

姫野 ああー！！（イバラを振り払う） …イライラする。イライラするなあ。イライラするなあ。あー！！ どのいつもこいつも思い通りにならねえ。邪魔だ。壊せ壊せコワセコワセコワセ…！！！！！！

真也 …。

友 おい、真也！

真也 お前はここで止める。

姫野 邪魔だ。

真也 どければいい。

姫野 壊す。

真也 殺す。

真也と姫野の戦いが始まる。一方的に避けられる姫野。

姫野 くそくそくそくそくそ、もっと力よこせよー！ 雑草がよー！！ うおおおおおおお
おおー！！！！

姫野の渾身の攻撃は避けられ、

秋人 真也ー！！

その顎に真世の一撃が入る。

真也 ……大丈夫？

友 ……化物。

真也 ……！！

友、去る。

愛 ……大丈夫か？

真也 ……僕たちは化物なんでしょう？ 友達を狙われたからと言って本気で、人を…。

秋人 深呼吸。深呼吸だ。

愛 ……さあな。

姫野、意識を取り戻す。

姫野 ああ、ああ。

真也 ！

愛 だが、無意識とは言え手加減したお前は、人だと、私は思うぞ。

姫野 (花を取り出して)おい。力をよこせよ。雑草、おい。おい！

真也 その花は雑草なんかじゃない。コンクリートを砕いて咲く力強い花。花言葉「誰か私に気
付けてください」アメリカヒメフウロ。

姫野 ヒメフウロ。そうか、お前、ヒメフウロって言うんだな。可愛い名前だな。ごめんな。

照明・一瞬暗転の後、中央サスのみになる。

三瀬と希が場にいる。

三瀬 そうか、裏切り者は見つからなかったか。

希 少なくとも、組織内には。

三瀬 ……含みのある言い方だね。

希 事実を述べているまでです。

照明・全面明かりになる

真也、入ってくる。

三瀬 安土君、どう…

真也 僕たちは、化物なんでしょうか？

三瀬 化物か…。

真也 何日も、何回も何十回も考えたけど、答えは出ません。どうなんでしょうか！？

希 お前…。

三瀬、手で制止する。

三瀬 私たちは化物にならないために戦っている。

真也 ……

三瀬 この答えでは納得できないかい？

真也 ……分かりません。

三瀬 分からない？

真也 ……迷っているんです。

三瀬 初めて、人と戦ったらしいね。

真也 ……

三瀬 安土君。私はね、この花人の能力は一種の才能だと思っているんだ。

真也 才能？

三瀬 この能力で生きている人がいたとしても、いいと思っている。だが、それに溺れたり、誰かを傷つけることはあってはならない。だから、安土君の取った行動は間違っていないと思う。

真也 ……そうなんですかね。

三瀬 ……安土君。君にも戦って欲しいと思っている。

真也 ……

三瀬 前も言った通り、無理にとは言わないけどね。
真也 ……ごめんなさい。

三瀬 そうか。

光が真也の足元に当たる。

希 やっぱり。

真也 ？

希 やっぱりお前が裏切り者だったんだな。

映像・ビット展開。

照明・映像用に一瞬照明落とす

三瀬 希！

何筋かの光が真也を襲う。

真也 違う！ 誤解だ！！

希 違う？ 誤解？

また光が流れる。

真也 そうだ！

希 お前が来た直後にあの男が来たのに？

真也 ！ でも、

希 その上戦わないと言うお前を信じろと？

光は、感情のように、叩きつけられるように流れる。

真也 僕たちが戦って何になる！

希 ……

真也 どうして…。どうして僕たちが戦わなくちゃいけないんだよー！

希 ……花言葉「希望」キバナアマ！

光を避け続け、一度肉薄するが、また距離が開く。

希 お前の選択は卑怯だ。

真也 卑怯？

希 賢いふりをして、責任を負いたくないだけだ。

真也 違う。

希 今だって俺に一撃食らわすことができたのに、しなかった。戦えるのに、戦わないのは臆病者だ。

真也 …。

希 戦わなきゃ何も得られないのに、それを放棄している。自分の身の潔白も、あの男が勝てばそれこそ俺たちは化物になるのに、お前は動かない。卑怯で、臆病だ！！

真也 違う！！！！

希 なら戦え！！！！ キバナアマ！！！！！！！！

最大の光を放つ希。一撃食らわせようとする真也。

一その間に入り、止める三瀬。

三瀬 そこまで。

二人 はあ、はあ。

三瀬 安土君は裏切り者じゃない。今の必死な様子を見て納得したね？

希 …はい。

出ていく希。

三瀬 希！ ……つたく。

真也 …戦わせてください！

三瀬 安土君。

真也 僕も、戦わせてください！ 僕は、僕らは、化物なんかじゃない！！

三瀬 …分かった。ありがとう。決行は、明日だ。

真也 明日？

三瀬 あの男は、私たち花人の存在をネット上に公開する算段のようだ。それだけは避けなくてはならない。

照明・暗転の後、二階に地明かり前明かり（+ブルーかなど）

場転。過去へ。真也とボスの出会いから、今へ。

子供真也と馳地がいる。

子 お花がない。

馳地 え？

子 おじさん、お花ないね。

馳地 お花？

子 うん。お花。みんなここにあるのに。

母、入ってくる。

母 すいません！ くら、ご迷惑でしょ！ すみません…。

馳地 いや、大丈夫ですよ。ところで、花と言うのは…？

子 胸のところにね、お花があるの！

母 とか言うんですよ。

子 お母さんはスズラン！

母 このせいで、友達もなかなかできなくて…。

馳地 友達…。

子 お父さんはね、カーネーション！

馳地 名前は何と言うんですか？

母 安土真也。

馳地 安土真也くん。真也くん。おじさんと友達にならないか？

子 友達？

馳地 うん。友達。ちょうど、おじさんもないんだ。

子 なろー！

馳地 その内、おじさんの花も見つけてくれよ？

子 うん！ー！！

照明・全面明かりになる

その様子を見ている真也と秋人。

真也 初めての友達だった。

秋人 だった？

真也 うん。だった。

秋人 今は？

真也 敵、とか、カタキとかになるのかな。

秋人 友達ではない？

真也 多分。

秋人 多分？

真也 友達じゃなくなるって、分かんなくて。

秋人 そっか。敵だけど、友達？

真也 かもしれない。分かんない。

秋人 そうだよな、分かんないよな。

真也 ていうか、おじさんはおじさんのままといいうか、何かのカテゴリーじゃない気がして…。

一 楽しそうに遊んでいる二人を見ている。

真也 ううん、忘れて。…何で今頃思い出したんだろ。

照明・一階明かりを落とす

また馳地と子真也の会話に戻る。

子 おじさんもやっぱり、花見えない？

馳地 見えないね。

子 それってやっぱり、気持ち悪い？

馳地 え？

子 気持ち悪い？

馳地 どうしてだい？

子 分かんない。

馳地 分かんないって、

子 みんな言うの。

馳地 ！

子 見えない。気持ち悪い。嘘つきって。でも、でもさ、見えないって言う方が嘘つきだよな。見えるんだもん。

一 泣きそうになっていく子真也。

子 友達ってどうやったら作れるのかな？ 作ろうとしなくちゃできないのかな？ 僕は化物

なのかな？ 化物じゃないよ？

一 抱きしめる馳地。

泣く子真也。

照明・一階に地明かり前明かり

一 外に出ようとする真也に抱き着く優菜。

真也 何？ どうしたの？

優菜 あはは、いや、そっか。もうそういうスキンシップの年じゃないよね。ごめんね。
真也 怒ってないよ。

優菜 何か分かんないけど、頑張ってくるんでしょ？

真也 …うん。

優菜 内緒？

真也 内緒。

優菜 ちえ。

真也 教えないよ。

優菜 大人になったなあ。

真也 かなあ？

優菜 …うん。

真也 …行ってきます。

優菜 行ってらっしゃい。気を付けてね。

照明・一階明かりを落とす

子真也に戻る。

子 ありがと。泣いちゃった。

馳地 なあ、真也君。

子？

馳地 おじさんの花、見えるかい？

しばらく経って、覚悟を決めた顔で立ち去っていく馳地。

その後ろ姿を見つめる秋人。

暗転。戦いへ。

何名か雑魚を倒した殺陣（すいません！ ここだけまだ確定してないのですが、一階だけ二階だけ、とシーンが連続していくようになります！）の後、安土と希が出てくる。

照明・二階に前明かり地明かり

希 大丈夫か？ 息上がってるぜ。

安土 後ろ！

希、後ろに一撃。

希 助かった。

安土 いや、いいよ。

希 あの時もそうだったな。

安土 え？

希 毒使ってくる女の時も、お前のおかげで助かった。

安土 いや、こちらこそ。

希 そんなやつが裏切り者なんて……。

安土 裏切ってなんかない。

希 ああ、ごめんな。疑って悪かった。

安土 ……。

希、安土の後ろにいる敵を倒す。

希 敵陣真っ只中で話してる場合じゃないな。行くぞ。

安土 うん！

照明・二階明かりを落として一階に地明かり前明かり

馳地たちが出てくる。

迫 来たみたいですね。

ライ どうしますか？

馳地 時間を稼いでくれ。

ライ はい！

レイ 姉さん。足悪いんだからさ、無茶しないでよ。

ライ 早く。行きましよ。

レイ はいはい。

二人、ハケる。

迫 本当に、公表するんですか？

馳地 ……これが、目的だったからね。

迫 ふうん。まあ、いいけど。考えられりゃ、それで。

馳地 ……。

迫 ああ、俺、あのビット操る姉ちゃんとしか戦わないですよ。

馳地 ……。

迫 俺の能力。集団戦とか向いてないの、ご存じでしょ？

馳地 ああ。

迫 楽しみだなあ。

追、ハケる。

照明・一階明かりを落として、二階に地明かり前明かり
真也、三瀬、希、愛が出てくる。

希　なんだ、大したことないな。

愛　油断しちゃいけない。まだ相手のボスも見つけてねえ。

希　分かってるよ。

三瀬　気配はないね。

希　先へ行こう。

照明・二階明かりを落として一階に前明かり地明かり(+青)
そこにライが出てくる。

ライ　行かせないわ。

愛　先行っててください。

三瀬　いいのかい？

愛　それなりにやりそうな目をしています。一筋縄ではいかんでしょう。

三瀬　分かった。任せたよ。

抜け出す三人。

ライ　あら、一人？

愛　嬢ちゃん一人なら、十分だろ。杖もついてるしな。

ライ　心外ね。見た目で判断するなんて。

愛　油断はしてねえつもりだ。この間ちっこいガキにやられちまったからな。

ライ　あなたの話じゃないわ。あっちの話。

ライ、存在が消えて、レイが三人の前に現れる。

照明・青から赤へ

レイ　もらったあー！！

三瀬が拳を受け止める。

レイ　やるじゃん。

距離を取ったところを、愛の茨が絡め取る。

愛 先に行ってくれ！

三瀬 だが…。

愛 見誤ったかもしれないねえが、ここであんたら留めるわけにもいかねえよ！

三瀬 っ！。

愛 足止めなら、得意ですから！

三瀬 行こう！

三人、ハケる。

愛 私に付き合ってもらおうよ。

レイ 趣味じゃねえよ。

愛 悪いね。流行りの顔じゃなくて。

レイ 問題ねえよ。潰しゃいいからな。

レイ、消える。

照明・赤から青へ

愛 なっ、また…。

ライ、杖で愛を殴る。

愛 どうやって…。

ライ 親は欠点みたいに言ったけれど、私たちは気に入ってんの、これ。

照明・青から赤へ

レイ やるよ、ライ姉さん。

かかどが振り下ろされた、その瞬間、

場転。三人へと視点がうつる。

照明・一階明かりを落とす、二階に地明かり前明かり

真也 愛くん、大丈夫ですかね？

三瀬 …大丈夫じゃないかもしれない。

真也 え。

三瀬 でも、信じるしかないんだ。信じよう。

希 ……。

希、光を放つ。

照明・全面明かりになる

迫 行ってえ!!!

迫現れる。

迫 いてて…死にそう。そんなんあり?

希 緊張感のないやつめ。

迫 何? 欲しいの? いらなくない? あんた、武士かなんか?

苛立たし気に睨む希。

迫 あ、お二人さん、先行ってどうぞ。

三人 ……?

迫 三人がかりなんかとてもじゃないけど無理だよ。俺が興味あるの、こっただけだし?

三人 ……。

迫 疑ってる? 畏だつて? 信用ないねえ。あるわけもないけどさ。でも、時間は貴重だよ? この瞬間にも、ネットにあげられるかもしれない。

三瀬 任せましたよ。

二人、ハケる。

迫 グッドな判断。花丸はあげれないけど、丸はあげちゃう。

希、照準を定める。

迫 何? 置いてかれて怒ってんの? 逆逆。選ばれたの。指名入ったの。喜んで? シャンパン入れられないけど勘弁ね。あっ、ドンペリの方かな?

撃たれる迫。

追 行ってえ!! 死ぬ死ぬ死んじやう。熱いし、いてえし最低だよ。

希 早く出せ。

追 ん?

希 早くお前の能力を出せ。完膚なきまで叩き潰してやる。

追 俺の能力ね。はいはい……。

希 ……。

追 ……。

希 ……?!

追 まだ使えねえや。

希 ……!

また撃たれる追。

追 意味分かんねえ! 最高だよこれ!! 光を放つとは言うけれど、体感的には光を浴びると言うよりかは、レーザーとかじゃなくて光が実体化した弾くらってる感じだ。光が実体化ってなんだ? 意味分かんねえ。それとこのビット。今日が満月だから、たくさんあるなあ。これも無反動だし、どこかが焼けているというのも見受けられない。何でだ? そういう能力と言ってしまえばお終いだ。お終いだけれど、何だこれ。意味分かんねえー!! (舐めて) ああ! 無味! 無味だよこれ!!
ごめん。興奮してきた。
希 ドン引きだよ。死んで。

場転。三瀬達。

照明・二階下手サスのみになる

馳地 来たか。来てしまったか。

照明・全面明かりになる

真也 おじさん! 何でこんなことするんですか!

馳地 こんなこと?

真也 僕の両親を殺して、今も僕らを苦しめていることです!

馳地 君のためだ。

真也 は?

馳地 理解は後でいい。終わった後でいい。真也君。こっちに来ないか。私につかないか?

三瀬 聞かなくていい。君の能力が目当てなんだ。その能力があれば、花人を見つけることができる。それでもっと、花人を殺す。

馳地 勘違いしている。殺すために殺しているんじゃない。私は彼に戦って欲しくないだけだ。

三瀬 この戦いに彼を巻き込んだのはあなたでしょう！

馳地 違うな。巻き込んだのはあなただ。あなたが、この戦いに、巻き込んだんだ。

真也 僕は！ 自分の意志でここに来ました！！

馳地 ……そうか、自分の意志か。そう言うんだな。

三瀬 何が言いたい？

馳地 何もないさ。語ることに最早意味はない。

土くれがわらわらと出てくる。

馳地 花言葉「憎しみ」バジル。

映像・バジル。

照明・映像用に一瞬照明落とす

馳地 バジルの本質は、支配と蹂躪だ。土ぐらい、造作もない。

三瀬が土くれに覆われる。

真也 三瀬さん！！

三瀬 問題ありませんよ！

馳地 ほう、やはりこのぐらいでは死なないか。だが死なないだけではどうにもならないぞ！

土くれが切られたように崩れる。

馳地 ほう！

真也 柄、だけ？

三瀬 無刀流、とでも言いましょうか。花言葉「平穩」ミセバヤ。

映像・ミセバヤ。

照明・映像用に一瞬照明落とす

三瀬 私は能力を無効化出来ます。そしてこの刀は、能力を、あなたの花を、切れます。

馳地 可能性だけでは勝てんよ！ 空論と言っんだ！！

殺陣（と言っても刀はありませんが）が始まる。土くれの物量はすごいが、通用しない相手には押されてしまう。徐々に距離を詰められる馳地。

三瀬 これまでのようですね。

馳地 なるほど。あなたは強い。能力も、その身のこなしも流石だ。恥ずかしながら、私はやはりおじさんになってしまったようだ。

三瀬 投降するなら、殺しはしません。

馳地 だが、強いのは自分だけだ。

三瀬が振り返ると、土くれが真也の近くにいる。急いで真也の元に戻る三瀬。

そしてそれを土を使って追う馳地。

真也を守り切る三瀬。しかしその背中には、ナイフが刺さっている。

馳地 能力が効かないなら、能力じゃないもので攻撃すればいい。

真也 三瀬さん！！

三瀬 …大丈夫です。すぐ死ぬようなものでは…。

真也 どうしたら…！

三瀬 逃げて…。

真也 どうして！ こんなことするんですか！

馳地 …君のため、

真也 嘘だ！

馳地 ずっと君を見守ってきたんだ！

真也 嘘だ…！！

馳地 嘘じゃない。気づいていないのか？

真也に近づく馳地。

秋人が止めようとするが、止められるわけもない。がくりと膝をつく。

馳地 どうして、毒使いが都合よく君たちの前に現れたと思う？

真也 ！、

馳地 どうして、君たちのアジトが君が訪れてすぐバレたと思う？

照明・二階中央サスと一階下手サスのみになる。

真也 ああ…。

ライ 半分不正解!!

愛 がっ……!

ライ 私たちは同じ花を分け合う双子。

レイ 花言葉「二面性」

ライレイ カラスウリ。

映像・カラスウリ

照明・映像用に一瞬照明落とす

照明、この後、セリフの度に赤と青を変える。

赤 レイ 俺たちは、

青 ライ どちらか一方しか実体化できないの。

赤 レイ 二人で一人。

青 ライ どちらかが居るときは

赤 レイ もう片っぽはいないことになる。存在してない。

青 ライ 幽霊みたいなものね。

赤 レイ つまり、分かったか?

青 ライ あなたに私たちは、

赤 レイ 倒せない。

倒れる愛。

レイ 行こうぜ姉さん。どうせサイコ野郎が遊んでるよ。

ライ そうね。

その足を茨と愛が掴む。

愛 行かせねえ。

レイ ……! 何だよこいつ!!

愛 約束したもんでな。行かせないって。

レイ その約束はなしだ! 残念だったな!!

愛 いいや、絶対に行かせない。…私を倒すつもり?

青 ライ 何? 今更喧嘩でも売ってるの?

愛 売っちゃいない。倒せない相手に売るのは可哀そうだ。

赤 レイ 言うね? 殺すよ。

希 ！？

追 ジャストサイズだろ？ 何度も触って確かめたんだから。狂いは一ミリもないはずだ。

希 ！

追 花言葉「危険な快樂」チューベローズ。

映像・チューベローズ。

照明・映像用に一瞬照明落とす

追 対象物がちょうど収まる箱を作ることができる。その箱と同じぐらい、俺にジャストな能力だろ？

距離を取る希。光を放とうとする。

追 縦横高さ(数字)！ 無駄だよ。あなたのピットは全て正確にこの大きさだ。

隙を伺うが、もう攻撃をする隙もない。近接は体を測られる危険性がある。

追 ……何度あなたとこうやってすれ違ったと思う？

希 ？

追 どの距離で、どれぐらいあなたと身長差があるのか。身長はすぐに分かった。身長が分かれば肩幅は計算ですぐに出る。個人差は見て修正すればいい。問題は厚さだ。流石に計算一発で出ない。基準になるものの近くに、来てもらわなくちゃいけない。

希 まさか！

追 あなたの敗因は、その箱と並んだことだ！ あなた、コカップだろ？ 縦横高さ(数字)！！
もう、逃げられない！

照明・暗転。その後、中央サスのみになる。

場面変わって、愛のところに。

愛 苦肉の策だ。これしかねえ。相手の攻撃が私に届くその瞬間。確実に実体化しているその瞬間を狙ったカウンター。そのために、相手の攻撃を感じするこの茨の鎧を纏った。こんな策しか残っていないなんてな。だがやるしかねえ。あの人に約束したんだ。絶対に行かせないって。あの人のために戦うんだ。この、人を傷つけることしか出来ない茨を「キレイだ」って言ってくれた、あの人のために。…叩き込まれる前に、返す。失敗したら後はねえ。いや、後のことなんて気にしねえ。絶対に成功させる。感覚を研ぎ澄ませ。呼吸を整えろ。いつ来てもおかしくない。相手

も必殺を叩き込んでくるはずだ。殴りか蹴りか。緊張の糸を切らすな。待て…。待て……………。

しばしの間の後、攻撃に反応する愛。

愛 ……！

茨が捉え、拳を当てた先にあったのは、杖。

愛 ……えっ……………？

赤 レイ 外れ。

首筋に、正確にかかと落としが入る。

青 レイ トドメをさすならこっちだって、無意識に思ってたんじゃない？

愛 がっ…行かせ…。

赤 レイ 無駄無駄。頸椎にキレイに入ったんだ。しばらく動けねえよ。

青 レイ 起死回生のカウンター。狙いはよかったと思うわ。

愛 ……二面性

赤 レイ そう。私たちの花言葉。

愛 花にも多面性がある。

レイ ？

愛 花言葉がいい例だ。いい言葉もあれば悪い言葉もある。

レイ 何言ってるの？

青 レイ カワイソーに。頸椎やられて意識が朦朧としてんだ。自分が何言ってるのかも分かってねえよ。

愛 薔薇にも、たくさんの…

レイ、愛を蹴り飛ばして

レイ 行こうぜ。

レイ、そのままハケていく。

赤 レイ そうね。

愛 二人だけの世界。

レイ 返して（杖を取る）。…行きましょ。……？ レイ！ レイ！！

愛 無駄だ。

ライ ! 何したの!

愛 賭けだが、成功してよかった。

ライ 何したのって聞いているの!

愛 花言葉「二人だけの世界」。薔薇にはたくさんのお花言葉があるんだ。キザだからあんま言いたくなかったけどよ。

ライ ……そんな。

愛 ここには今、私とあんたしかいねえよ。あつちのネーちゃんとは分が悪いから、杖を持つ瞬間を狙わせてもらった。

ライ ふふふ…。

愛 引き分けまでにしかならないから、最後の奥の手だったけど、

ライ あははははははは!

愛 ……?!

ライ 私たちの負け! 負けよ!

愛 ……。

ライ やるじゃない。見直したわ。

愛 そりゃどーも。

ライ せっかくの一人、堪能させてもらおうわ。

去っていくライ。

愛 ……たくましい。

照明・暗転。その後全面明かりになります。

場転。希のところ。

迫 気分はどう? 流石に箱の中までは俺も未体験なんだ。……そっか、箱は喋らないよ喋れないよね。残念だ。そうそう。その中、光一つも入らないだろ? 完璧な箱だからね。隙間一つない箱だからね。ちゃんと調べたんだ。花言葉「希望」キバナアマ。能力は「月の満ち欠けにより数が増減する、光を放つビットを操る」だろ? もう知ってる。その光が入らない状態じゃ、仮に生きてたとしても、ビットは生み出せないな。ゼロだ。ま、どうに生きてすらいないけどね。……さて、行くかな。もう先の分かっていることは、面白くない。後で回収しに来るから待ってて。コレクションの一つにしてあげるから。

希 光一つも入らない、か。

迫 !

希 一つ間違っている。

追 どこにいる！ あんたは確かに箱の中に入った！！ 出られるはずがない！！
希 箱の中さ。動いちゃいない。

追 なら、どうして！

希 体は多分死んだ。この声は、俺の精神で話している。

追 そんなこと、ありえない。

希 お前が言ったんだ。生きてると死んでるのが同時に存在してるって。

追 なに？

希 箱の中なら、ありえるんだろ？

追 そうらしいな。だが、今のあんたに何ができる！？

希 話を戻そう。一つ間違っている。

追 は？

希 正確に言えば、足りない。確かに月の満ち欠けによってビットの数は変わる。だが、減れば減るほど、放つ光は強くなるんだ。

追 何？

希 闇が強いほど、光は強くなる。今日は生憎の満月だった。お前を一撃で倒すほどの威力は出せなかった。

追 だからどうした？ 負け惜しみ？ 満月じゃなかったら倒せてたのにつて！？ 悔しいな

あ。そりゃ悔しいよなあ。残念だったねえええええ。

希 分からないのか？

追 は？

希 今もお前を付け狙っているビットが。

追 (辺りを見渡して) ハツタリに頼るような人間だとは思わなかったぜ。

希 闇に溶けるゼロ個の存在しないビットが分からないのか？

追 ゼロ個？ 存在しない？ 意味不明なこと言うな！ そんなのあるわけないだろ！！

希 ああ、普通は存在しない。だがお前の完璧な箱は、完璧な闇を作り上げているんだろ？ そのおかげで、確かにここにあるんだよ。

追 (非常に焦っている)

希 未知が、怖いのか？ 大好きじゃなかったか？ 冥土からの土産だ。くれてやる。キバナア
マーーーー！

追 ぐああああああああああああ！！！！ (断末魔)

希 ……人に戦えって言った分ぐらいは、戦えたか？ ……ここまでか。追いつく予定だったの
にな……。任せたぜ真也。

照明・暗転。その後全面明かりになる。

場転。真也たち。

馳地 帰りなさい。何も見なかったことにするんだ。君のためだ。こんな血なまぐさい戦場にいるべきじゃないんだ。

真也 ……見なかったことにしろ？ いつまで子供扱いし続けるんですか？ 逃げません。もう目を逸らしません。僕は、逃げてきました。遠ざけて、自分とは関係のないことだって言い聞かせてきたことがたくさんあります。それが人間だろうって言うことはできません。でも、僕は僕の意味でこの場にいます。全てを見届けて、受け入れます。花言葉「真実」アネモネ。

映像・アネモネ。

照明・映像用に一瞬照明落とす

真也 見なかったことにしていたこの花とも、向き合います。

馳地 ……決めたんだな。

真也 はい。あなたの死に様も、見届けます。

三瀬 安土君、いけない…！

真也 殺す。

真也の拳は、顎を捉える。

馳地 いいパンチだ。じゃれてた頃とは全然違うな。だが、一筋縄とはいかないぞ！
真也 殺す。殺す。

殺陣が始まる。互角のように見えるが、真也が優勢。

三瀬 いけない。力に呑まれては。濁流に、抗うんだ…。

真也 遅い。圧倒的に遅い。そんなんで、いいんですか！

三瀬 安土君！

真也 死んじゃいますよ？ それじゃ簡単に、死んじゃう。

三瀬 戻ってくるんだ！

真也 こんな雑魚に殺されたんじゃ、両親も浮かばれませんよ…！ ……ああ、あはははははははは。そっか、僕が強すぎるだけ、ですね。すみません、武器持ってなくて。これじゃいたぶつてるみたいになっちゃいますね。はは。

三瀬が間に割って入る。

真也 邪魔ですよ。

三瀬 それじゃ、ダメだ。それじゃ、それこそ、化物だ。

それを聞いた馳地が、ナイフを三瀬に突き立てる。

三瀬 ぐっ…。

馳地 この子は、化物なんかじゃない。

倒れる三瀬。

馳地 そうだろ？

投げ飛ばされる馳地。

照明・二階明かりを落とす。

そこにつかつかと近づいていく真也。
間に入る秋人。

秋人 待ってくれ。

真也 何ですか？ 今更命をいいますか？ 卑怯ですね。

馳地 ？

真也 とぼけるんですか？ これが！ あなたの能力なんですよ！！

秋人 彼に俺は見えてない。

真也 え？

秋人 あの日からそうだ。

馳地 待て。何を見ようとしている！

照明・一階下手サスと二階中央サスのみになる。

声が聞こえてくる。馳地の子供時代が出てくる。

馳地子 ねえ、お外出ていい？

馳地母（声のみ） ダメに決まってるでしょ！！！！ 何考えてるの！！！！！！

秋人 彼の母親は、少しヒステリ気味だった。

馳地母 ごめんなさいね。お家にいましょう。ね？

秋人 だが、彼を愛してなかったわけではなかった。むしろ、愛する故に、外に出したくなかったようだ。

真也 どうして…？

馳地子 お母さん見て！ お人形さんのダンスー！！

馳地母 それは、使っちゃダメって言ったでしょ！！！！ 気色悪い。それは、普通じゃないんだ

から!!

馳地子 ごめんなさいごめんなさい! だって、一人じゃ楽しくないんだもん!! 寂しいもん!!

馳地母 ……お本読んであげるから。ね?

秋人 彼の母親は、彼の能力を怖がっていたようだった。それでも、何とか理解しようとしたし、彼のために出来ることをしていた。だが、本の中のキャラクターは皆、友達を持っていた。どうしても友達が欲しかった彼は、庭先に落ちていた枝を拾い集めて、俺を作った。

秋人 やあ。初めまして。

馳地子 初めまして! 友達だ!

秋人 友達! 光栄だね。ところで、君の名前は?

馳地子 流!!

秋人 オッケー。流、分かったぜ。それで、俺は?

馳地子 えっとね……。今が秋だから、秋人ってどう?

秋人 秋人! 気に入ったぜ! よろしくな!

馳地子 よろしく!

秋人 ……俺にとっても、彼にとっても初めての友達だった。母親にも内緒の、友達だった。満足に外にも出れなかったが、誰よりもたくさんの思い出がある。アニメも同じのが好きだし、絵本は演じ分けて読んでみたりした。俺が桃太郎だったり、彼が桃太郎だったり、彼が亀で、俺は亀をいじめる子供だったり、擦り切れるほど、家の全てで遊んだ。

時がたって、彼は小学校に上がった。そのころには、母親の過保護は少しだけなりを潜めていた。初めて、俺以外の、人間の友達が出来た。学校以外で、遊びに行こうと初めて言われたんだ。

馳地子 土曜日! 明日遊びに行くの!

秋人 そりゃよかったじゃねえか! 何するんだ?

馳地子 特に決まってるないって。駄菓子屋行くってのは言ってた!

秋人 何着てくか決めたか?

馳地子 決めた!!

秋人 気が早いことで…。

馳地子 秋人も行くよ?

秋人 え? 俺も?

馳地子 とーぜん。僕の友達だもん。置いてけぼりしないよ。

秋人 そうだけど。いいのか?

馳地子 いいの! 行こっ!

秋人 ……今思えば、この時止めていけばよかったんだ。

馳地子 じゃん! 僕のお友達。秋人!!

照明、一階中央サスをつける。

子供たち、出てきて、気持ち悪いものを見る目で去っていく。

照明・一階中央サスを落とす。

秋人 事件は翌日に起こった。

馳地子 あれ？ 秋人？ 秋人ー！ 秋人、どこへ行ったの？ 秋人？ 秋人！！

秋人 俺の姿が見えなくなったんだ。そして、昨日友達に俺を見せたところまで行ったんだ。

子供たち出てくる。

照明・一階中央サスをつける。

馳地子 みんな！ 秋人がいなくなっちゃったの！ 見なかった？

照明・二階中央サスを落とす。

子供たち、いなくなる。

そこには、ボロボロの人形が落ちている。

馳地子 秋人！！

秋人 俺は燃やされていた。

馳地子 お母さん！ 秋ひ：

秋人 母親にも言えなかった。もしかしたら燃やしたのは母親かもしれない。小学生に火を扱う知識があるかは分からない。

人々が馳地子を囲む。

人 化物。

馳地子 化物なんかじゃない！

人 化物。

馳地子 化物じゃありません！！

人 化物。

馳地子 これは動きません！ 動くわけがないです！ 動かせるわけがありません！ 化物じゃありません！！

人 化物。

馳地子 こんな友達じゃありません！ 関係ないです！！ 化物じゃありません！！

人 化物。

馳地子 こんなもの！ こんなもの！！ こんなもの！！！！！！！！ 僕は化物じゃありません！！！！！！！！！！

馳地 この、分からずや!!!

殺陣が始まる。

真也 話し合いで何とかならなかったんですか!

馳地 話さなかったと思うか! 話したよ、何度も、何度も!!! だが、誰も聞いてはくれなかった! そんなに、仮初の平穩が恋しいかね! バレていないだけの、日々を平和と言うのか!!!

真也 確かにそれも、平和でしょう!

馳地 臭いものにふたをしているだけだ! 単なる問題の先送りだ!!

真也 その選択も、間違っているわけではない!

馳地 ではまた、泣く子供が生まれていいのか!!! 人と違うことで傷つけられる世の中でいいのか!!!

真也 人を殺したあなたに、それを語る資格はない!

馳地 なら、涙を見て見ぬふりしろと言うのか。打開しなくてはいけないだろう!

真也 それでも、人を殺してはいけなかった!!!

馳地 これは、したくなかったが、仕方がないか。

自分の手足にナイフを突き立てる。

真也 なっ…。

動きがとても素早くなる。

真也 自分で手足を物にしたのか。

馳地 生きてなければ、能力で動かせるからね。

その後、馳地が優勢になる。

馳地 見えても、それより早ければ問題ないだろう!!!

真也 くっ…。

馳地 …同じ目をしているな。両親によく似ている。

真也 ……!

馳地 愚かな親だった。自分の子供が化物扱いされているというのに、私の計画に賛同しなかった。

真也 だから、殺したんですか。

馳地 そうだ。これ以上こんな苦しみは後世に残してはいけない。

真也 ……違う。あなたは、僕や未来を救いたいんじゃない。

馳地 ……？

真也 あの日の自分を救いたただけだ。化物じゃないと慰めて欲しいだけなんだ。

馳地 ！

照明・中央サスのみになる。

人 化物。

馳地（&馳地子） 化物じゃない！！

人 化物。

馳地（&子） 化物じゃない！！

馳地子 化物なのかな。

馳地 ！

馳地子 みんなが僕をいじめるのも、お母さんが打つのも、化物だから？

馳地 化物じゃない！

馳地子 化物だよ。

馳地 化物じゃない！！！！

馳地子 じゃあなんで、みんないじめるの？ お母さんは僕を打つの？

馳地 あああああ、ああああああ！！！！

照明・全面明かりになる。

三瀬 安土君。

三瀬、柄だけの刀を渡す。

三瀬 頼んだよ。

真也、その刀で居合の構えを取る。

馳地 それで、私の花を切るか。だが、止まる気はないぞ！ こんな苦しみは！ もう無くさねばならない！！

真也、緊張している。

秋人 深呼吸。深呼吸だ。

真也 ！

秋人 大丈夫だ。彼を、止めてやってくれないか。

互いに向かって、決着がつく。

馳地 ぐうっ…。

馳地 倒れる。止めを刺そうとするが、秋人が止める。
それを受けて、刀を収める真也。

秋人 ありがとう。

真也 いえ、決着は付きましたから。

秋人 それでも、ありがとうなんだよ。

真也 …受け取ります。

秋人 ありがとう。

真也 多すぎますよ。

秋人 親友を助けてもらえたんだ。足りないぐらいだよ。

真也 秋人さん。

秋人 君に言われるのは、おかしな気分だな！ …さて、行かなきゃな。

真也 え？

秋人 君はその刀で花を切った。だから、能力である俺は消えるんだ。…頑張れよ。これからだぞ、大変なのは、乗り越えるんだぞ。焦った時は、

真也 深呼吸でしょ。

秋人 そうだ。分かっているならいい。またな。…またな（馳地に向かって）

ハケようとする秋人。

その後ろ姿に向かって、馳地が意識を取り戻し、声をかける。

馳地 秋人！ 秋人なんだろう！！ どこだ？ 秋人！ ずっと探していたんだ！！ お前さえ
いれば、私はそれでいいんだ！！ それだけでいいんだ！！ 秋人！！！！

去っていく秋人。

馳地 秋人！！！！！！

真也、馳地の手を取り

真也 僕も友達ですよ。

馳地 ……………。

真也 仲直りしましょう。ずっとしてた仲違いを終わらせましょう。

馳地 あああああああ……………。

照明・暗転。その後全面明かりになる。

場転。エピローグ。

真也 こうして、戦いは終わった。たくさんの血と痛みが流れて、命が失われた。いくら時間が経っても、傷も痛みも、治らなかった。

愛 何で、あいつが死ななくちゃいけないえ！ そりゃ、気は合わなかったけどよ、合わなかったけどよ……！ すまねえ、お前に当たっても仕方ねえよな……。

真也 ううん。いいよ。

愛 あの人も、意識が戻らねえ。どうすりゃいいんだろうな。俺たちに何が出来るんだろうな。何が、正解なんだろうな……………。

馳地、入ってくる。

馳地 これからどうして行くつもりだ？

愛 よく平気な顔してられんな……！

馳地 すまない。

愛 そんな言葉じゃ、仲間は生き返らねえよ……！ 何しに来たんだよ！

馳地 これから、真也君はどうするつもりなのかと思ってね。

愛 何でお前なんか……。

馳地 友達として、聞きに来たんだ。

愛 ……。

馳地 君の能力は、全ての人間に利用価値がある。その上、リーダーから預かっている刀がある。君がその気になれば……、全ての花人の花を消すことができるだろう。君が望む望まないに関わらず、君は、力を持ってしまった。

愛 何だよそれ……。こいつは何も悪くないだろ。

馳地 悪くなくても、力を持った者は決断しなくてはいけないんだ！ どうするつもりだ？

真也 僕は……。やっばり、平穩に生きたいです。

愛 (だよな)

真也 でも、それを邪魔する人がいるなら、僕は戦います。

愛 戦わなくていいじゃねえか！ 逃げて逃げて、どこにでも行って、そこで平穩に生きればい
いじゃねえか！ 戦えば、誰かが死ぬ！ 死にまう！！ 私はまだ誰にも死んで欲しくねえ！
傷ついて欲しくねえ！！ 戦って何が増えた？ 私の手には何も増えなかった。握れた手が一
つ減ったぐらいだ。 私は、臆病か？ 弱くなっちゃったか？ それでも構わねえ！！ みんな
と、平穩に暮らしてえんだ！！！！

刀を抜く真也、愛の胸めがけて振り下ろします。

愛 え？

真也 愛ちゃん。君は優しいんだと思う。

愛 え？

馳地 決めたのか。

真也 だから、この戦いから離れて三瀬さんの所において欲しい。

愛 何だよそれ！ 私は、お前とも。。。花言葉「情熱」薔薇！ ……薔薇あ！！

真也 無駄だよ。花は、切った。

愛 何だよ！

真也 僕が力を持ったからだ。

愛 一人で背負うんだよ！！

馳地 平穩を求める化物になるか。

真也 はい。

馳地 辛いぞ。

真也 覚悟の上です。

馳地 そうか、決めたんだな。

愛 何で、そんな顔してられんだよ！！！！

真也 決めたんだ。僕も同じ気持ちなんだ。もう何も失いたくないんだ。

愛 お前はどうなるんだよ！

真也 誰かが戦わなくちゃいけない。

愛 お前じゃなくてもいいじゃねえか！

真也 顔も知らない誰かには任せられない。みんなの平穩を守りたいんだ。

愛 お前は、誰に守ってもらうんだよ！

真也 ……いいんだよ。

愛 勝手だな！

真也 ごめん。

愛 仲間じゃなかったのかよお！！！！

真也 ……だからさ。

終。